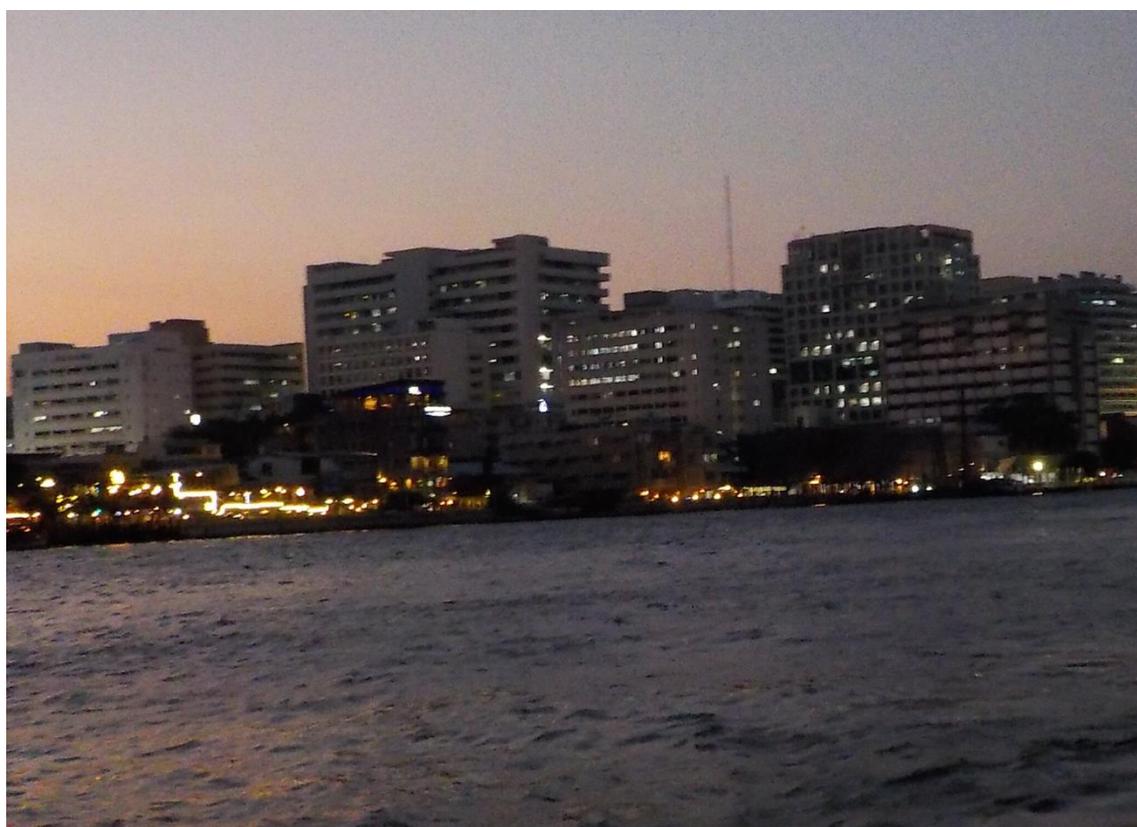

2016 海外病院実習報告書
マヒドン大学シリラート病院
4/4～4/29



神戸大学医学部医学科6年

毛利有沙

I. 実習病院の紹介

私はタイのバンコクにある国立マヒドン大学シリラート病院にて 4/4 から 4/29 の 4 週間実習をさせていただきました。

この病院は現在の国王の父親であるソンクラーナカリン王子が近代化に尽力された病院で、病床数が 2000 床以上もあるタイ国内で最大かつ最古の病院です。

はじめの 2 週間は外傷外科、残りの 2 週間は産婦人科でお世話になりました。

II. 外傷外科

外傷外科は日本ではなじみのない名称ですが、外傷の診断、治療に加えて、救急外来のような役割も兼ねていました。私は主に外来で傷の処置を見せてもらったり、X 線画像で骨折を診断する練習をしたりしました。外傷といっても交通事故による外傷、野犬やリス、蛇等の動物による咬傷、機械による切断や糖尿病性足壊疽による指切断によるものなどさまざまでした。この外来を担当されているのはレジデントと呼ばれる若い先生方で、難しい症例に当たった場合それぞれの外来の最中でも皆寄り集まって意見を出し合っていたのが印象的でした。

タイでは CT や MRI のある病院は限られていて台数も少ないため、画像診断のメインは X 線でした。出血の疑われる患者さんに対して CT を撮るかどうかがカンファレンスで話し合っていたのですが、日本では考えられないことで驚きました。地方の病院でさえ機器が充実している日本の環境は素晴らしいと思う反面、本当に必要な検査かどうかを慎重に考える姿勢は見習うべきところがあると思いました。

普段なら縫合などのトレーニングをするワークショップへの参加も可能だったのですが、残念なことに私が実習をした期間は 2 週目に旧正月の休暇があったため開催されていませんでした。また、医学生は夏休み中だったようです。

III. 産婦人科

産婦人科では外来の見学と分娩室での実習をさせていただきました。

外来は STD、婦人科、family planning (避妊、不妊など)、産前、産後という様に分かれていて、すべての外来を見学させてもらいました。STD は今までは知識として知っているだけだったのですが実際に症状を聞き、帯下の色調や性状を観て、さらに顕微鏡で菌体を確認させてもらい、理解が深まりました。

分娩室では常に 20 人ほどの妊婦さんが出産待ちの状態でした。ここで私は tocomonitor (分娩監視装置) を取り付け、内診をし、赤ちゃんを取り出すといった体験をさせていただきました。特に内診はコツが分からず難しかったのですが、先生方に丁寧に説明して頂き何度もチャレンジして、やっと胎児頭に触れられたときは本当に感動しました。

ここでは現地の学生も実習していました。彼らは私がさせてもらったのと同様の手技を練習し、さらにすべての患者さんの問診やカルテの記載の仕事もこなし、忙しく動き回って

いました。私が一緒に実習した現地の学生は 5 年生だったのですが、多くの知識を持ち、すでに技能のトレーニングも積んでいて教えられることばかりでした。タイの医学生は卒業後すぐに田舎の病院に派遣され即戦力として働かなければならないため、4 年生から実習をはじめ、6 年生ではレジデントの助手として働ける程度の知識とスキルを身につけているそうです。



IV. タイでの生活

上で触れましたが、実習期間中の 4/13 から 4/15 までの 3 日間はソンクラーンと呼ばれるタイの旧正月にあたり、実習も休みだったので私も現地の祭りに参加しました。誰かれ構わず水を掛け合う祭りで、全身ずぶ濡れになりましたがとても楽しめました。

シリラート病院の近くにはワンランマーケットという大きな市場があり、食べ物や衣類をはじめ日常生活に必要なものは全て揃えることが出来ました。また川を渡ってすぐの所に王宮があり、観光にも便利な場所でした。病院の敷地内には食堂や図書館、プール、ジムといった施設があり、宿泊した寮の部屋も綺麗で快適に過ごせました。

放課後は知り合ったドクターや学生、また他大学からの日本人留学生とご飯を食べにいたり、週末にはアユタヤを観光したりもしました。

V. 最後に

シリラート医学部の一学年の学生数はおよそ 300 人でその約半数が女子学生だそうです。実際、病院内でも女性医師が日本より多いと感じました。タイの医師は日本と同様、忙しいのですが、私が研修した科ではシフト制を取り入れており、帰れる時間が決まっていたので女性でも働きやすい環境だと感じました。

現地のドクターや医学生には大変お世話になりました。タイ語が全くわからない上に医学英語も完全に勉強不足だったのですが、彼らは私が理解できるよう懸命に説明してくださり、おかげで有意義な実習にすることができました。

タイでの毎日は新しい発見だらけでとても充実していました。今回のプログラムに関わってくださったすべての方々に感謝します。有り難うございました。

